

開講日	2019年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	医学部研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院 医学研究科加齢・環境皮膚科学分野 教授 森田 明理		

科目概要 および 期待される 成果	本講義では、多様な皮膚疾患を理解するために、わかりやすく、皮膚科医以外の医療従事者にとって必要な皮膚科プライマリケアの知識を概説する。最近問題となる在宅医療や施設でのプライマリケアも想定して、皮膚科専門医がすべての講義を担当し、一部に実践的な内容が含まれる様にする。その他、スキンケアや皮膚老化などの一般的な話題にもふれて、皮膚・皮膚疾患について、広範囲な理解を深めてもらう。
目標とする 資格	本講義に出席することで、皮膚科プライマリケアが理解できるようにする。実践的な内容も紹介し、明日からの診療に役立つようにする。

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	日常診療にみる皮膚アレルギー	アレルギーという言葉は日常生活でもよく使われますが、皮膚はアレルギー症状出現部位の一つであり、日常診療においても正確な症状の把握、診断が求められます。今回は日常診療で知っておきたい皮膚のアレルギー疾患について概説します。	4月9日	講師 西田 絵美 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-2	2	アトピー性皮膚炎、乾癬に対する生物学的製剤の実際	関節リウマチを始め様々な疾患で生物学的製剤治療という言葉を目にするが増える中、皮膚科領域においても10年前より乾癬に対して生物学的製剤が適応となり、現在ではアトピー性皮膚炎に対しても既存の治療の他、生物学的製剤が使用可能となりました。現在の生物学的製剤の現状についてお話します。	4月16日	講師 西田 絵美 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-3	3	今日からはじめよう、フットケア	近年糖尿病の患者数が急増しており、それに伴って糖尿病性足病変への対応が求められています。またフットケアという単語も一般化し、保険での算定も可能になって来ております。今回特に糖尿病性足病変の診断、治療について実践的な内容をお話したいと思います。	4月23日	講師 加藤 裕史 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-4	4	熱傷 一病態と対処法	熱傷について、基本的な病態生理と経時的な変化をお話します。また、その処置について学びます。	5月7日	部長 榊原 代幸 名古屋第二赤十字病院 皮膚科
L-5	5	褥瘡と傷のきれいな治し方	高齢化や独身世帯の増加により、外来や在宅医療において褥瘡に対するケアは必須の知識となってきています。今回は褥瘡治療や予防、傷の治るメカニズムなどについて解説します。	5月14日	講師 加藤 裕史 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-6	6	皮膚疾患と光	皮膚は外的刺激から体を守るバリアとしての機能を持つ臓器です。数ある外的刺激のなかでも、光は皮膚疾患との関連が最も深いもののひとつであり、様々な皮膚疾患の原因となる一方、治療としても使用されています。皮膚と光の関係について概説します。	5月21日	助教 中村 元樹 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-7	7	皮膚がんの見分け方と治療の実際	本邦において皮膚がんは頻度の低いがんであるが、高齢化に伴って急増しています。今回は皮膚がんと他の疾患の見分け方に加え、昨今どんどん変わってきている皮膚がんの最新治療について解説します。	5月28日	講師 加藤 裕史 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-8	8	アトピー性皮膚炎とスキンケアの基本	アトピー性皮膚炎は日常診療でよく遭遇する、痒みを伴う湿疹を主病変とする疾患です。アレルギー疾患としての側面が強調されることが多いですが、最近ではバリア異常も等しく重要と考えられています。それらの病因や、基本的な治療方針、スキンケアの方法などについてお話します。	6月4日	部長 澤田 啓生 名古屋市立西部医療センター 皮膚科
L-9	9	保清を中心としたスキンケア	皮膚科ではスキンケアが重要であり、その指導も必要となります。今回は保清を中心に述べ、これと関連して温泉、入浴などについての話題にも触れます。	6月11日	部長 西尾 栄一 豊川市民病院 皮膚科
L-10	10	高齢者でみられる皮膚疾患	皮膚疾患は多岐にわたるが、高齢者特有の皮膚疾患も散見される。ADLの低下や高齢化による皮膚生理的機能の変化、高齢者に多い内服による有害事象などが典型であり、それらについて解説する。	6月18日	部長 渡辺 正一 海南病院 皮膚科
L-11	11	超高齢社会に必要とされる皮膚科の医療スキル	超高齢社会を迎えた現在、医療の現場では疾患を治すだけでは済まない事例を多く経験することが多いと思います。外来や入院で必要とする医療や介護資源の使い方などについて皮膚疾患を中心に多数症例を交えて解説します。	6月25日	医長 久保 良二 蒲郡市民病院 皮膚科
L-12	12	薬疹の診断、治療、対策	高齢者は多数の薬剤を内服しており、薬疹のリスクが高いと考えられます。重篤例では生命に関わることもあり、早期の診断、対策が必要です。薬疹の診断、治療、対策について概説します。	7月2日	医長 村松 伸之介 江南厚生病院 皮膚科
L-13	13	皮膚老化のメカニズムと予防	シミ、シワ、タルミや皮膚癌の発生など、様々な形で現れる皮膚老化の症状とそのメカニズム・予防法について、最新の研究における知見を交えて解説します	7月9日	助教 中村 元樹 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-14	14	怖いですか？ステロイド外用剤を安心して使うために	「おばけ」って怖いですね。でもその正体がわかっちゃったら、なーんだってこともありますよね。なんとなく怖いイメージのステロイド外用剤を少しでも安心して使えるように。	7月16日	医長 古橋 卓也 春日井市民病院 皮膚科
L-15	15	地域連携と皮膚科	地域医療連携における皮膚科の役割をまとめ、本講義シリーズのまとめとしたい。	7月23日	教授 森田 明理 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学